

# 第2次おおい町未来創生戦略


## 令和3年度事業評価シート

(令和4年8月)

## 第2次おおい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	1-①	課名	すこやか健康課
------	-----	----	---------

戦略分類	1. 子育て支援		
取組の方向	みんなで子育てを支え合い・応援する環境づくり		
戦略事業名	①妊産婦支援事業		
予算事業名	母子保健事業(助産師配置・産後ケア)		
令和3年度実績額	335,000円	令和4年度予算額(6月補正後)	534,000円

事業の概要 (実績)	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)
	<p><b>【助産師配置】</b> すくすく広場や離乳食教室に助産師を配置し、妊娠・出産・育児に関する相談に応じている。また、第1子の赤ちゃん訪問を助産師が実施している。 ・助産師訪問数 17組</p> <p><b>【産後ケア事業】</b> 概ね産後4か月頃までの産婦を対象に、助産師による母の心身のケアや授乳・育児相談などを実施している。(会場は中山クリニック2階を使用) ・実利用者数 8人(延利用者数 9人)</p>	<p><b>【助産師配置】</b> すくすく広場や離乳食教室に助産師を配置し、妊娠・出産・育児に関する相談に応じている。また、第1子の赤ちゃん訪問を助産師が実施している。 ・助産師訪問数 19組</p> <p><b>【産後ケア事業】</b> 産後1年以内の産婦を対象に、助産師による母の心身のケアや授乳・育児相談などを実施している。(会場は中山クリニック2階を使用) ・実利用者数 3人</p>	<p><b>【助産師配置】</b> すくすく広場や離乳食教室に助産師を配置し、妊娠・出産・育児に関する相談に応じている。また、第1子の赤ちゃん訪問を助産師が実施する。</p> <p><b>【産後ケア事業】</b> 産後1年以内の産婦を対象に、助産師による母の心身のケアや授乳・育児相談などを実施する。これまで、利用時間を10時～15時としていたが、10時～13時の短時間利用もできるようになった。(会場は中山クリニック2階を使用)</p>
			

評価(Check)							
成果を測る指標 (KPI・数値目標)	妊娠出産に満足している者の割合		⇒	現 状		KPI達成率 (%)	
	基準値 (平成30年度)	71.7%		令和3年度末	79.1%		94.5%
	目標値 (令和6年度末)	83.7%					

① 数値目標達成状況	おおむね達成
達成状況の要因分析	<p>令和2年度から、助産師の配置と産後ケア事業を実施し、産後不安定になりがちな母の心身のサポートを実施している。助産師による訪問指導や相談事業では、特に授乳に関して不安を抱きやすい初産婦に対し、具体的な指導を実施できており、産婦の満足度につながっていると考えられる。</p> <p>また、産後ケア事業では、休息を取れずに育児をしている母に休息の機会を提供したり、育児不安を抱える母の相談に対応しており、産後の疲労回復や不安解消につながっていると考えられる。</p>
新たな目標の考え方	—

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)

ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針

特に授乳方法などにおいて、助産師は具体的な指導が実施できるため、授乳に関する不安を抱きやすい初産婦に対して、助産師の訪問指導や相談事業は有意義である。  
また、育児不安を抱えている母や、十分な休息をとれずに育児をしている母に対し産後ケア事業を実施し、助産師による育児相談を行ったり、休息の機会を提供することは、産後うつや育児ストレスの軽減のために必要である。  
コロナ禍においては、外出をためらい家に閉じこもりがちな母子もあり、育児不安や育児疲れが蓄積することも考えられるため、今後も感染対策をしっかりと実施しながら、助産師による訪問指導や相談事業を実施していく。また、産後ケア事業も継続し、育児不安や育児疲れがある産婦に対し、心身のケアや休息の機会を提供していく。

③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映

引き続き、助産師による訪問活動、相談事業を通じた育児指導、産後ケアでの育児相談や休息機会等の提供を行い、妊産婦の心身のサポートを実施した。また、ホームページやアプリ等により、しっかりと事業の周知が図れた。

④ 事業成果

母子をサポートするため、令和2年度から助産師の配置と産後ケア事業を実施しており、妊娠・出産に満足している者の割合は79.1%と目標値(83.7%)に近づいている。

助産師による訪問や相談については、授乳や児の体重増加に不安がある産婦に対し、具体的な授乳指導が実施でき、効果的であった。

産後ケア事業については、十分な休息がとれずに育児をしている母が利用することで、母に休息の機会を提供し、産後うつや育児ストレスの軽減につながった。また、育児不安を抱える母へ助産師による育児相談を実施することで、育児不安の解消にもつながった。

内部評価結果

助産師による訪問活動、相談事業を通じた育児指導や産後ケア事業での育児相談や休息機会の提供が、妊産婦の満足度につながっており、KPIの達成に向けて順調。今後も、継続して心身のサポートを実施していくことが重要

## 第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	1-①	課名	すこやか健康課
------	-----	----	---------

戦略分類	1. 子育て支援		
取組の方向	みんなで子育てを支援し合い・応援する環境づくり		
戦略事業名	①妊産婦支援事業		
予算事業名	母子保健事業(マザーズカフェ)		
令和3年度実績額	53,255円	令和4年度予算額(6月補正後)	72,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)
事業の概要(実績)	<p>妊産婦を対象に、同じ地域で子育てをしていくための仲間作りを第一の目的に開催している。気軽に参加できてリラックスしてもらえる場として利用できるように、飲み物やおやつを提供も行っている。また、専門職(助産師や歯科衛生士等)によるミニ講座があり、必要な知識を持ち帰ってもらうことや、妊娠生活や育児についての悩みを相談できることを目的に講座を企画している。</p> <p>実績 回数: 年6回(新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から2回中止) ミニ講座: 産後ヨガ3回 ベビーマッサージ1回 歯みがき講座2回 参加者: 延べ77人(うち妊婦1人)</p>	<p>妊産婦を対象に、同じ地域で子育てをしていくための仲間作りを第一の目的に開催している。気軽に参加できてリラックスしてもらえる場として利用できるように、飲み物やおやつを提供も行っている。また、専門職(助産師や歯科衛生士等)によるミニ講座があり、必要な知識を持ち帰ってもらうことや、妊娠生活や育児についての悩みを相談できることを目的に講座を企画している。</p> <p>実績 回数: 年8回(新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から2回飲食物の提供を中止) ミニ講座: 産後ヨガ4回 ベビーマッサージ2回 歯みがき講座2回 参加者: 延べ72人(うち妊婦6人)</p>	<p>妊産婦を対象に、同じ地域で子育てをしていくための仲間作りを第一の目的に開催している。気軽に参加できてリラックスしてもらえる場として利用できるように、飲み物やおやつを提供も行っている。また、専門職(助産師や歯科衛生士等)によるミニ講座があり、必要な知識を持ち帰ってもらうことや、妊娠生活や育児についての悩みを相談できることを目的に講座を企画している。</p> <p>計画 回数: 年8回 ミニ講座: 産後ヨガ2回 ベビーマッサージ2回 歯みがき講座2回 授乳についてのおはなし2回</p>



R3.8 保健福祉センターなごみ



R3.12 あつとほ〜むいきいき館

### 評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	マザーズカフェの開催			現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成30年度)	年間延べ72人		令和3年度末	年間延べ72人	
	目標値(令和6年度末)	年間延べ90人	⇒			80.0%

① 数値目標達成状況					おおむね達成
達成状況の要因分析	令和3年度の参加人数は基準値と同じで、大飯地区の参加人数は伸びているが名田庄地区での参加人数が少ない状況。1歳前後で保育園に入園する児が増え、幼児の参加が少なくなったことが原因と考えられる。一方で第1子や妊婦の参加が増え、教室の周知や助産師の配置等の成果が出てきていると考えられる。今後も妊婦や未入園児の親が気軽に参加できるように新生児訪問等で積極的に周知していく。				
新たな目標の考え方	—				

<b>② 事業に取組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)</b>	
ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針	<p>チラシを配布するだけより直接教室について説明して勧めた方が初めてでも抵抗感が少なく参加できていると感じたため、妊娠届出時や新生児訪問等、確実に話ができる機会に直接情報提供するよう心がける。特に初妊婦には両親学級代わりとしての利用を勧めていく。</p> <p>また、コロナ禍で子どもと気軽に外出できる場所が少なくなっており、子どもと遊んだり他の親と交流したりできる大事な機会として利用されている方が多い。感染対策を心がけたうえでできるだけ中止せずに開催する必要がある。また、デザートを提供や飲食しながらの交流を楽しみに来られる方もおられるので、感染防止のために飲食を中止にする際は、できるだけ多くの場所で事前に周知していく必要がある。</p>
<b>③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映</b>	
<p>妊婦の参加数が少なかったことから、令和4年度より妊婦でも参加しやすい講座として助産師による「授乳についてのおはなし」を計画している。</p>	
<b>④ 事業成果</b>	
<p>令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から2回飲食物の提供を中止したが、ミニ講座は予定通り開催した。コロナ禍で外出できる場所が減っているため、子どもを連れて遊びに行ける場所として提供できた。妊婦の参加については、上の子どもを連れての参加の他、初妊婦が助産師への相談や友達作りのために参加することもあり、教室の認知の幅が広がりがつつある。</p>	
<b>内部評価結果</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で子どもと気軽に外出できる機会が少なくなっていた中で、子どもと遊んだり、親同士が交流したりできる大切な機会として利用されている方も多く、令和3年度は感染対策に心がけた上で、可能なかぎり開催しKPIは概ね達成している</li> <li>・今後も、妊婦や未入園児の親が気軽に参加できるように新生児訪問等で積極的に周知していくことが重要</li> </ul>	



## 第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	1-②	課名	住民窓口課
------	-----	----	-------

戦略分類	1. 子育て支援		
取組の方向	みんなで子育てを支え合い・応援する環境づくり		
戦略事業名	②子育て世代に優しい町PR事業		
予算事業名	(経常)こども家族館管理運営事業		
令和3年度実績額	215,000円	令和4年度予算額(6月補正後)	240,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)
事業の概要(実績)	<p>こども家族館は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年度から引き続き6月1日まで閉館となった。その後、順次子育て支援のための事業を再開したが、参加定員を設けたり、広い会場に変更するなど、3つの密にならないよう運用を行った。そのため、利用者は例年より減っているが、参加を楽しみにしている人は多く、毎回一定数の利用者があった。</p> <p>また、情報発信については、館内において町の子育て支援施策PRパネルや観光ポスターの掲示などでPRを行った。</p> <p>なお、例年は春と秋に企画展を開催しているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。</p> <p>【令和2年度各事業実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て応援プログラム 453名</li> <li>・子育てマイスターさんとあそぼう 235名</li> <li>・なかよししましょ 227名</li> <li>・春秋期企画展(中止)</li> </ul>	<p>令和3年度も、コロナ禍の状況は変わらず、県下に緊急事態宣言が発令されたことにより、こども家族館は8月7日から9月30日まで休館を余儀なくされた。再開してからも、参加定員を設けたり、広い会場を使用するなど、3つの密にならないよう運用を行った。そのため、利用者は例年より大幅に減少したが、参加を楽しみにしている人は多く、毎回一定数の利用者があった。</p> <p>また、情報発信については、館内において町の子育て支援施策PRパネルや観光ポスターの掲示などでPRを行い、SNSを使っている情報発信も再開した。</p> <p>なお、例年企画展を開催しているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、春の企画展は無く、秋の企画展も中止となった。</p> <p>【令和3年度各事業実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て応援プログラム 434名</li> <li>・子育てマイスターさんとあそぼう 294名</li> <li>・なかよししましょ 220名</li> <li>・秋期企画展(中止)</li> </ul>	<p>今年度も、コロナ禍の状況は変わっておらず、昨年同様、参加定員を設けたり、広い会場を使用するなど、3つの密にならないよう運用を行っている。そのため、今年度も、利用者は例年より減少傾向にあるが、参加を楽しみにしている人は多く、毎回一定数の利用者がある。</p> <p>また、情報発信については、館内において町の子育て支援施策PRパネルや観光ポスターの掲示などでPRを行っており、併せてSNSを使っている情報発信も実施している。</p> <p>なお、今年も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、春の企画展は無く、秋の企画展においても実施は未定である。</p> <p>【令和4年度各事業予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て応援プログラム 年24回開催</li> <li>・子育てマイスターさんとあそぼう 年11回開催</li> <li>・なかよししましょ 年11回開催</li> <li>・秋期企画展(実施未定)</li> </ul>



子育て応援プログラム(赤ちゃんと絵本を楽しもう)



子育てマイスターさんと遊ぼう(食事についてのお話)

### 評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	イベント入込数			現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成30年度)	年間延べ 22,717人		令和3年度末	948人	
	目標値(令和6年度末)	年間延べ 23,500人	⇒			4.0

① 数値目標達成状況		現状では達成が難しい
達成状況の要因分析	<p>令和3年度は、コロナ禍のため、実施を予定していた秋の企画展が中止になった。他の事業も制限をかけた中での運用であったため、例年に比べて参加者数は減少したが、企画展の参加者が大変低くなってしまった。</p> <p>しかしながら、令和6年度にはコロナ禍の状況は改善しているものと考え、目標値は据え置くこととしたい。</p>	
新たな目標の考え方	-	

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)	
<p>ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針</p>	<p>コロナ禍においても、子育て中の家族の利用は一定数あり、子育てや育児に関する悩みについて、身近な施設で気軽に相談できる環境を整えることは有意義であると思われる。</p> <p>また、イベント時だけでなく、平日においても専門的に相談できる機会を更に増やしていくことが必要であると考え、平成29年度以降、新たな子育て応援プログラムとして「子育てマイスターさんとあそぼう」を年11回(8月除く月1回)開催することとし、保育、医療、看護、保健など子育てに関する国家資格を持つ「子育てマイスター」から、子育てに関する助言を受けたり、悩みや不安に関する相談ができる機会を創出しており、他の相談の機会と併せてアフターコロナにも対応していきたい。</p>
③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映	
④ 事業成果	
<p>町子育て支援施策等を啓発するためのパネルなどは常時掲示しており、来館者に対して一定のPR効果はあるものと思われる。</p> <p>その効果を直接的に移住・定住の促進につなげていくためには、興味を持たれた方に対して、町の子育て包括支援センター等の関係機関とも綿密に連携しながら、PRに取り組んでいく必要があると思われる。</p>	
内部評価結果	
<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、大規模イベントを実施できなかったことにより実績がKPIを下回っているが、今後状況が改善するものと考えKPIは維持する。イベントなどでのPRを移住・定住につなげていくための取組が重要</p>	

## 第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	1-③	課名	住民窓口課
------	-----	----	-------

戦略分類	1. 子育て支援		
取組の方向	経済的な支援のさらなる充実		
戦略事業名	③保育料負担軽減事業		
予算事業名	大飯地区認定こども園運営委託等事業		

令和3年度実績額	328,835,150円	令和4年度予算額(6月補正後)	345,725,000円
----------	--------------	-----------------	--------------

	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)
事業の概要(実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1子 0歳～2歳児の保育料軽減</li> <li>・第2子以降、保育料無償化</li> <li>・3歳～5歳児の副食費を無償化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1子 0歳～2歳児の保育料軽減</li> <li>・第2子以降、保育料無償化</li> <li>・3歳～5歳児の副食費を無償化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1子 0歳～2歳児の保育料軽減</li> <li>・第2子以降、保育料無償化</li> <li>・3歳～5歳児の副食費を無償化</li> </ul>



### 評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	入園率		現	状	KPI達成率(%)
	基準値 (平成30年度)	88.7%	⇒	令和3年度末	101.9
	目標値 (令和6年度末)	90.0%			

#### ① 数値目標達成状況 達成

達成状況の要因分析	<p>ここ数年未満児からの入園が増加しており、特に1歳児からの入園が増加傾向にあり、園児数は安定している。しかし、出生数は徐々に減少しており、今後は園児数の減少も考えられる。今後も保育内容の充実に努め、保護者や地域から信頼される園作りを目指し、就園率アップに心掛ける。</p> <p>※なお、入園希望者については100%就園している(待機児童なし)</p>
新たな目標の考え方	—



② 事業に取り組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)

ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針

保育料の負担を軽減することにより、子どもを園に預けやすくなるとともに、保護者の働きやすい環境が整えられる。

③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映

④ 事業成果

国の幼児教育、保育無償化に併せて、第1子0歳から2歳児の保育料軽減、第2子以降保育料無償化、3歳から5歳児の副食費の無償化を行うことにより、保護者の経済的負担が軽減された。

内部評価結果

保育にかかる経済的な負担を軽減することで子どもを預けやすい環境が整った結果、KPIの達成に向けて順調。今後も、継続して保育内容の充実に努めていくことが重要

## 第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	1-③	課名	住民窓口課
戦略分類	1. 子育て支援		
取組の方向	経済的な支援のさらなる充実		
戦略事業名	③保育料負担軽減事業		
予算事業名	名田庄こども園運営事業		
令和3年度実績額	42,139,128円	令和4年度予算額(6月補正後)	46,917,000円
事業の概要(実績)	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1子 0歳～2歳児の保育料軽減</li> <li>・第2子以降、保育料無償化</li> <li>・3歳～5歳児の副食費を無償化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1子 0歳～2歳児の保育料軽減</li> <li>・第2子以降、保育料無償化</li> <li>・3歳～5歳児の副食費を無償化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1子 0歳～2歳児の保育料軽減</li> <li>・第2子以降、保育料無償化</li> <li>・3歳～5歳児の副食費を無償化</li> </ul>
 			

評価(Check)					
成果を測る指標(KPI・数値目標)	入園率			現 状	KPI達成率(%)
	基準値 (平成30年度)	88.7%	⇒	令和3年度末	90.0%
	目標値 (令和6年度末)	90.0%			
① 数値目標達成状況					達成
達成状況の要因分析	<p>ここ数年未満児からの入園が増加しており、特に1歳児からの入園が増加傾向にあり、園児数は安定している。しかし、出生数は徐々に減少しており、今後は園児数の減少も考えられる。今後も保育内容の充実に努め、保護者や地域から信頼される園作りを目指し、就園率アップに心掛ける。</p> <p>※なお、入園希望者については100%就園している(待機児童なし)</p>				
新たな目標の考え方	—				

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)	
ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針	保育料の負担を軽減することにより、子どもを園に預けやすくなるとともに、保護者の働きやすい環境が整えられる。
③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映	
④ 事業成果	
国の幼児教育、保育無償化に併せて、第1子0歳から2歳児の保育料軽減、第2子以降保育料無償化、3歳から5歳児の副食費の無償化を行うことにより、保護者の経済的負担が軽減された。	
内部評価結果	
保育にかかる経済的な負担を軽減することで子どもを預けやすい環境が整った結果、KPIの達成に向けて順調。今後も、継続して保育内容の充実に努めていくことが重要	

## 第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	1-④	課名	すこやか健康課
------	-----	----	---------

戦略分類	1. 子育て支援		
取組の方向	経済的な支援のさらなる充実		
戦略事業名	④にこにこ赤ちゃん応援事業		
予算事業名	にこにこ赤ちゃん応援事業		
令和3年度実績額	2,967,393円	令和4年度予算額(6月補正後)	3,440,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)
事業の概要(実績)	乳幼児の子育てに係る経済的負担を軽減することを目的として、満2歳誕生日までの乳幼児を養育する保護者に対して、おむつ購入費年間最大24,000円の助成を行う。  <b>【実績】</b> 対象乳幼児: 184人 支給人数: 158人(子の数: 168人) 申請率91.3% ※限度額合計: 3,246,000円 支給額合計: 2,692,958円	乳幼児の子育てに係る経済的負担を軽減することを目的として、満2歳誕生日までの乳幼児を養育する保護者に対して、おむつ購入費年間最大24,000円の助成を行う。  <b>【実績】</b> 対象乳幼児: 149人 支給人数: 115人(子の数: 131人) 申請率87.9% ※限度額合計: 3,264,000円 支給額合計: 2,935,618円	乳幼児の子育てに係る経済的負担を軽減することを目的として、満2歳誕生日までの乳幼児を養育する保護者に対して、おむつ購入費年間最大24,000円の助成を行う。  <b>【対象乳幼児】</b> 212人 令和2年4月1日～令和5年2月生まれの乳幼児



赤ちゃんの健やかな成長のお手伝い

1人あたりの年間助成上限24,000円!

※月途中の出生や転入については、翌月からが助成対象となり、年途中に2歳になる乳幼児については、2歳誕生日までが助成対象となります。乳幼児1人あたりにつき年間24,000円を限度とし、4月から3月までが対象となります。

申請に必要なものは、申請書兼請求書・領収書など・通帳・印鑑

お問い合わせ先 すこやか健康課 (子育て世代包括支援センター) ☎77-1155

にこにこ赤ちゃん応援事業 (おむつ乳幼児おむつ購入費助成金)

■対象者  
市の住民基本台帳に記載されている満2歳の誕生日までの乳幼児の保護者(未成年者本人またはその他のもので、乳幼児を別に養育するものを含む)

■対象地域  
乳幼児、保護者が市の住民基本台帳に記載された翌月から、乳幼児が満2歳となる誕生日までの間に、対象地域で誕生した乳幼児のみの対象。

■申請方法  
『おむつ乳幼児おむつ購入費助成金支給申請書兼請求書』に領収書などを添えて、『すこやか健康課』『市民窓口』『保健福祉室』『産山文化交流センター』の窓口で申請、請求してください。申請、請求の時期は、4月から9月購入分については10月中旬、10月から3月購入分については3月中旬に申請、請求してください。

■必要なもの  
申請書兼請求書 購入したもの、購入年月日、購入店舗、購入金額が確認できる領収書など・通帳(申請書兼請求書の)・印鑑

■対象店舗 (令和3年4月1日現在、※休業となる場合があります。)

- ① ズンキー カみんげあ大塚店 おおいた町成海1-18-1 ☎0770-69-1251
- ② ホームプラザ ナフコ おおいた店 おおいた町成海1-18-1 ☎0770-77-3251
- ③ ズンキー おおいた本郷店 おおいた町本郷158-2-1 ☎0770-69-1038
- ④ カネイチ おおいた町本郷三番3-2-38 ☎0770-67-2220
- ⑤ くすりや源作 おおいた町本郷4-11-16 ☎0770-67-2051




※その他、詳しくは『すこやか健康課』にお問い合わせいただくか、おのQRコードからおむつ乳幼児おむつ購入費助成金ホームページをご覧ください。

### 評価(Check)

成果を測る指標 (KPI・数値目標)	—		⇒	現 状	KPI達成率 (%)
	基準値 (平成30年度)			令和3年度末	
	目標値 (令和6年度末)				

<b>① 数値目標達成状況</b>		
達成状況の要因分析		
新たな目標の考え方		

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)

ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針

保護者へのアンケートを実施した結果、この事業に対して、ありがたいと感じている保護者が多いことが分かった。また、保護者の方より頂いたご意見を、施策に反映できるよう今後検討していきたい。

③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映

事業に関する補助の内容や補助額について保護者へのアンケートを実施し、令和5年度以降の事業内容の検討材料とする。

④ 事業成果

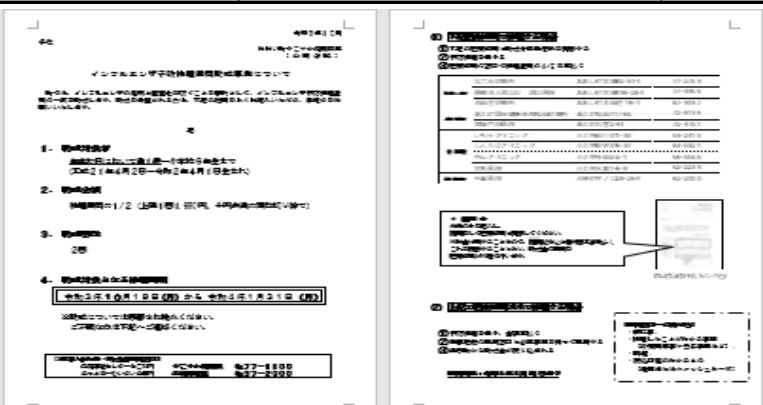
満2歳誕生日までの乳幼児を養育する保護者への経済的支援が図れたとともに、アンケートを実施することにより、保護者のニーズや思いを聴き取ることが出来た。また未申請者には、通知文と電話により、申請を促した。

内部評価結果

令和3年度の支給人数は115人(子の数:131人)であり、乳幼児を養育する保護者への経済的支援の観点から重要な事業となっている



## 第2次おおい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	1-④	課名	すこやか健康課
戦略分類	1. 子育て支援		
取組の方向	経済的な支援のさらなる充実		
戦略事業名	④にこにこ赤ちゃん応援事業		
予算事業名	予防事業(小児インフルエンザ予防接種費助成)		
令和3年度実績額	1,168,500円	令和4年度予算額(6月補正後)	1,571,200円
事業の概要(実績)	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)
	<p><b>【概要】</b> 小児インフルエンザの予防接種費用の一部を助成することにより、小児におけるインフルエンザの発症及び重症化を予防するとともに、保護者の経済的負担の軽減を図る。</p> <p>対象者: 年度初日において満1歳～小学校6年生まで 助成額: 接種費用の1/2(1回 1,850円を上限、十円未満切り捨て) 助成回数: 2回まで 助成する接種期間: 10月～翌年1月31日</p> <p><b>【実績】</b> 対象者数 834人 1回 207人 2回 379人</p>	<p><b>【概要】</b> 小児インフルエンザの予防接種費用の一部を助成することにより、小児におけるインフルエンザの発症及び重症化を予防するとともに、保護者の経済的負担の軽減を図る。</p> <p>対象者: 年度初日において満1歳～小学校6年生まで 助成額: 接種費用の1/2(1回 1,850円を上限、十円未満切り捨て) 助成回数: 2回まで 助成する接種期間: 10月～翌年1月31日</p> <p><b>【実績】</b> 対象者数 828人 1回 134人 2回 324人</p>	<p><b>【概要】</b> 小児インフルエンザの予防接種費用の一部を助成することにより、小児におけるインフルエンザの発症及び重症化を予防するとともに、保護者の経済的負担の軽減を図る。</p> <p>対象者: 年度初日において満1歳～小学校6年生まで 助成額: 接種費用の1/2(1回 1,850円を上限、十円未満切り捨て) 助成回数: 2回まで 助成する接種期間: 10月～翌年1月31日</p> <p><b>【予算】</b> 1,600円×982人</p>
			

評価(Check)					
成果を測る指標(KPI・数値目標)	—		⇒	現 状	KPI達成率(%)
	基準値 (平成30年度)	—		令和3年度末	
	目標値 (令和6年度末)	—			
① 数値目標達成状況					
達成状況の要因分析	/				
新たな目標の考え方	—				

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)	
ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針	引き続き、助成の案内と同時にインフルエンザワクチンの効果や適切な接種時期などの正しい知識も周知できるよう務める。
③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映	
引き続き、町外でも代理受領できる医療機関を継続実施し、保護者の申請の手間を減らし、接種率向上に努めた。	
④ 事業成果	
子どものインフルエンザの蔓延防止に努めるために接種を促すとともに、接種費用の一部を助成し、保護者の経済的負担の軽減を図ることができた。また、接種費の代理受領を委託する医療機関を増やしたことで、町外医療機関での接種も多く見られた。	
内部評価結果	
接種費用の一部を助成し、保護者の経済的負担の軽減を図ることができている	

## 第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	1-⑤	課名	住民窓口課
------	-----	----	-------

戦略分類	1. 子育て支援		
取組の方向	経済的な支援のさらなる充実		
戦略事業名	⑤子育て支援医療費助成事業		
予算事業名	子育て支援医療費助成事業		
令和3年度実績額	28,252,000円	令和4年度予算額(6月補正後)	26,376,899円

事業の概要(実績)	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)
	<p>18歳以下の子供たちに係る医療費の自己負担額を助成することで、子育て世帯に対する経済的な支援を行い、児童福祉の増進を図る。</p> <p>※0歳から18歳に達した年の3月31日までの子どもが助成対象</p>		
	同左	同左	

2021年度 支払月	現物分						償還分						町単独補助事業費		県補助事業費		合計	
	町費分		県費分		現物計		子育て町費		子育て県費		償還計		件数	金額	件数	金額	件数	金額
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額						
4	80	332,012	682	1,433,924	762	1,765,936	27	62,860	61	204,872	88	267,732	107	394,872	743	1,638,796	850	2,033,668
5	123	608,101	928	1,791,251	1,051	2,399,352	37	84,310	79	163,770	116	248,080	160	692,411	1,007	1,955,021	1,167	2,647,432
6	80	357,347	759	1,468,844	839	1,826,191	11	48,950	69	145,256	80	194,206	91	406,297	828	1,614,100	919	2,020,397
7	81	343,380	773	1,490,923	854	1,834,303	20	67,870	104	212,516	124	280,386	101	411,250	877	1,703,439	978	2,114,689
8	95	411,255	794	1,463,235	889	1,874,490	11	43,450	103	160,340	114	203,790	106	454,705	897	1,623,575	1,003	2,078,280
9	75	338,427	943	1,863,513	1,018	2,201,940	13	71,670	75	94,080	88	165,750	88	410,097	1,018	1,957,593	1,106	2,367,690
10	92	433,570	843	1,664,885	935	2,098,455	26	95,930	129	258,440	155	354,370	118	529,500	972	1,923,325	1,090	2,452,825
11	84	310,359	646	1,289,850	730	1,600,209	3	33,430	77	159,050	80	192,480	87	343,789	723	1,448,900	810	1,792,689
12	79	351,256	768	1,500,550	847	1,851,806	6	23,410	72	172,180	78	195,590	85	374,666	840	1,672,730	925	2,047,396
1	94	390,196	894	1,622,954	988	2,013,150	22	133,250	92	143,200	114	276,450	116	523,446	986	1,766,154	1,102	2,289,600
2	88	354,873	710	1,172,108	798	1,526,981	29	69,130	93	308,353	122	377,483	117	424,003	803	1,480,461	920	1,904,464
3	74	133,491	697	1,338,144	771	1,471,635	29	97,520	80	249,884	109	347,404	103	231,011	777	1,588,028	880	1,819,039
小計	1,045	4,364,267	9,437	18,100,181	10,482	22,464,448	234	831,780	1,034	2,271,941	1,268	3,103,721	1,279	5,196,047	10,471	20,372,122	11,750	25,568,169

### 評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	—	⇒	現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成30年度)		—	令和3年度末	
	目標値(令和6年度末)		—		

① 数値目標達成状況	
達成状況の要因分析	
新たな目標の考え方	—

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)	
ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針	子どもの1人当たりの年間の医療費やデータを収集し、予算確保に努める。
③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映	
④ 事業成果	
令和3年度において、延べ11,750件、25,568,169円の医療費助成を行うことができた。	
内部評価結果	
子育て世帯を経済的に支援するための重要な施策であり、今後も継続して取り組んでいく必要がある	

## 第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	1-⑥	課名	住民窓口課
------	-----	----	-------

戦略分類	1. 子育て支援		
取組の方向	経済的な支援のさらなる充実		
戦略事業名	⑥妊婦等医療費助成事業		
予算事業名	妊婦等医療費助成事業		
令和3年度実績額	2,094,600円	令和4年度予算額(6月補正後)	2,827,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)
<p>母子手帳の交付から出産の約2か月後までの妊婦及び産婦への医療費助成を行うことで、妊婦、産婦がいる世帯に対して経済的な支援を行った。</p>	同左	同左	同左

事業の概要(実績)

妊婦等医療費助成支給実績															
										予算額	執行額	予算残	執行率		
										2,736,000	2,071,064	664,936	75.70%		
令和3年度支給状況															
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均	単位
人数	13	9	6	7	8	13	17	13	14	10	13	11	134	11.17	人
件数	62	33	18	28	35	52	77	66	50	20	60	32	533	44.42	件
支給額	289,450	170,523	21,480	242,850	128,200	362,821	223,990	123,180	152,720	63,680	77,930	214,240	2,071,064	172,589	円
※一人当たり	15,456 円														
内訳(入院分)															
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均	単位
件数	5	4	1	4	3	7	2	1	3	0	1	4	35	2.92	件
支給額	107,280	122,363	60	190,850	81,600	299,651	78,870	33,320	80,130	0	13,490	162,610	1,170,224	97,519	円
※1件当たり	33,435 円														
内訳(外来その他分)															
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均	単位
件数	57	29	17	24	32	45	75	65	47	20	59	28	498	41.50	件
支給額	182,170	48,160	21,420	52,000	46,600	63,170	145,120	89,860	72,590	63,680	64,440	51,630	849,210	75,070	円
※一人当たり	6,337 円														

### 評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	—	⇒	現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成30年度)		—	令和3年度末	
	目標値(令和6年度末)		—		

① 数値目標達成状況	
達成状況の要因分析	
新たな目標の考え方	




② 事業に取り組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)	
ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針	里帰り出産等県外の医療機関の診療事例が多く、申請確認作業において、他の補助事業(妊婦検診への補助等)への申請漏れが発生しないよう、連携をとって事業を実施する。
③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映	
④ 事業成果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認定者数 56名</li> <li>・ 支給件数 のべ533件</li> <li>・ 助成額 2,071,064円</li> </ul>	
内部評価結果	
妊婦及び産婦にかかる医療費の助成を通じて、子育て世帯を支援していくために町が独自に実施している施策であり、今後も継続して取り組んでいく必要がある	

## 第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	1-⑦	課名	学校教育課
------	-----	----	-------

戦略分類	1. 子育て支援		
取組の方向	経済的な支援のさらなる充実		
戦略事業名	⑦高等学校等通学費支援事業		
予算事業名	高等学校等通学費支援事業		
令和3年度実績額	6,729,800円	令和4年度予算額(6月補正後)	7,500,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)	
事業の概要(実績)	<b>【概要】</b> 高等学校等に就学する生徒の通学に要する経費補助 高等学校、高等専門学校、特別支援学校高等部及び専修学校高等課程に修学する生徒の通学に要する経費の一部を助成することにより、その保護者の負担を軽減し、もって本町における子育て環境の整備を図る。 補助額: 通学に要する公共交通機関の定期乗車券購入費の1/2 (助成限度額 1箇月10,000円/人)	<b>【概要】</b> 高等学校等に就学する生徒の通学に要する経費補助 高等学校、高等専門学校、特別支援学校高等部及び専修学校高等課程に修学する生徒の通学に要する経費の一部を助成することにより、その保護者の負担を軽減し、もって本町における子育て環境の整備を図る。 補助額: 通学に要する公共交通機関の定期乗車券購入費の1/2 (助成限度額 1箇月10,000円/人)	<b>【概要】</b> 高等学校等に就学する生徒の通学に要する経費補助 高等学校、高等専門学校、特別支援学校高等部及び専修学校高等課程に修学する生徒の通学に要する経費の一部を助成することにより、その保護者の負担を軽減し、もって本町における子育て環境の整備を図る。 補助額: 通学に要する公共交通機関の定期乗車券購入費の1/2 (助成限度額 1箇月10,000円/人)	
	<b>【実績】 助成実人数</b> 大飯地域 135人 4,571,200円 名田庄地域 32人 1,727,400円 合計 167人 6,298,600円	<b>【実績】 助成実人数</b> 大飯地域 140人 4,719,900円 名田庄地域 39人 2,009,900円 合計 179人 6,729,800円	<b>【予定】 助成対象人数</b> 大飯地域 130人 名田庄地域 46人 合計 176人 7,500,000円	
	事業開始年度: 平成22年度			
				

### 評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	利用率		現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成30年度)		82.1%	⇒	令和3年度末
目標値(令和6年度末)	84.0%				

① 数値目標達成状況	達成
達成状況の要因分析	高等学校等に通学しているすべての生徒が最寄りのバス停から公共交通機関を利用し通学しているのではなく、保護者の通勤に合わせて通学している生徒や、最寄りの駅まで送迎している保護者が毎年一定数いることから、通学費助成の利用については例年横ばいで推移している。ただし、毎年、対象者数に変動があるため、令和3年度については達成した。 今後も引き続き、町の広報、ホームページや有線放送、また町のメール配信を活用し、高等学校等に通学する保護者に対し、周知を行うとともに負担軽減を図っていきたい。
新たな目標の考え方	—

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)	
ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針	引き続き、広く周知を行うとともに、アンケート調査等による効果検証を行う。
③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映	
④ 事業成果	
高等学校等に就学する生徒の保護者に対し、経済的サポートができた。	
内部評価結果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の通勤に合わせて通学している生徒等が一定数いるため、例年利用率は概ね横ばいではあるものの、令和3年度はKPIを達成しており、子育て家庭の経済的なサポートにつながっている</li> <li>・小浜線の乗客数を増やす観点からも重要な取組として、引き続き、周知・広報活動を実施していくことが重要</li> </ul>	

## 第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	1-⑧	課名	学校教育課
------	-----	----	-------

戦略分類	1. 子育て支援		
取組の方向	経済的な支援のさらなる充実		
戦略事業名	⑧進学サポート事業		
予算事業名	進学サポート事業		
令和3年度実績額	34,670,260円	令和4年度予算額(6月補正後)	36,133,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)
事業の概要(実績)	<b>【概要】</b> 大学や短期大学、専門学校等に進学する学生の保護者に対し、月額20,000円(最高4年分:960,000円(所得要件あり))を給付することにより、修学意欲のある学生の家庭を援助するとともに、該当学生に対し、町の情報発信を行い、ふるさと“おい”を思う気持ちを醸成する。	<b>【概要】</b> 大学や短期大学、専門学校等に進学する学生の保護者に対し、月額20,000円(最高4年分:960,000円(所得要件あり))を給付することにより、修学意欲のある学生の家庭を援助するとともに、該当学生に対し、町の情報発信を行い、ふるさと“おい”を思う気持ちを醸成する。	<b>【概要】</b> 大学や短期大学、専門学校等に進学する学生の保護者に対し、月額20,000円(最高4年分:960,000円(所得要件あり))を給付することにより、修学意欲のある学生の家庭を援助するとともに、該当学生に対し、町の情報発信を行い、ふるさと“おい”を思う気持ちを醸成する。
	<b>【実績】</b> 上期(給付)152人 18,240,000円 下期(給付)156人 18,720,000円 合計 延べ308人 36,960,000円	<b>【実績】</b> 上期(給付)145人 17,400,000円 下期(給付)143人 17,160,000円 合計 延べ288人 34,560,000円	<b>【予定】</b> 上期(給付)150人 18,000,000円 下期(給付)150人 18,000,000円 合計 延べ300人 36,000,000円
	アンケート調査 対象者:152人 設問:13問+自由意見 回答:95人	アンケート調査 対象者(保護者):125人 設問:10問 回答:97人	
			
	進学サポート給付金		

### 評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	—		⇒	現 状		KPI達成率(%)
	基準値 (平成30年度)	—		令和3年度末	—	—
	目標値 (令和6年度末)	—				

① 数値目標達成状況	
達成状況の要因分析	当該事業におけるKPI・数値目標は設定されていないが、保護者等に対する経済的サポートの面において、事業目的を達成することができた。 今後も引き続き、修学意欲のある若者の未来を応援するため、国内の大学等に在学する者を扶養する保護者等への経済的支援を図るとともに、学生に対する町の情報発信に努めたい。
新たな目標の考え方	—

<b>② 事業に取り組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)</b>	
ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針	<p>給付対象学生を対象に、町からのイベント情報・広報誌発刊情報・就職情報をメール配信するとともに、給付対象学生の保護者を対象に、事業の必要性及び給付金の用途、また、町内子育て支援策の有効性等について調査し検証している。</p> <p>引き続き、町からメールによる情報発信を積極的に行うとともに、アンケートについては、学生の就職に関する意識調査に重点を置いて調査を実施。その結果を担当各課等と共有し、学生が求める情報の提供に努める。</p>
<b>③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映</b>	
<b>④ 事業成果</b>	
<p>国内の大学等に在学する者の保護者等に対し、経済的サポートができた。</p> <p>また、保護者に対し、進学サポート事業の必要性及び給付金の用途、町内子育て支援策の有効性等について調査を実施し検証を行った。</p>	
<b>内部評価結果</b>	
<p>修学意欲のある学生および保護者を経済的にサポートするおおい町独自の制度であり、今後も継続的に学生等への情報提供など繋がりを維持する取組を行い、Uターンなどに繋げていくことが重要</p>	





<b>② 事業に取り組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)</b>	
ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針	令和3年度の申請では人工授精2人、体外(顕微)受精が3人おり、そのうち1人が妊娠につながっている。今後も、町民に不妊治療助成事業があることを知ってもらうため、広報やホームページで周知する。
<b>③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映</b>	
引き続き、不妊治療に係る自己負担分の費用を助成し、治療を受けている夫婦の経済的支援を実施した。また、広報やホームページにより、しっかりと事業の周知を図った。	
<b>④ 事業成果</b>	
子どもを産みやすい環境づくりを推進するため、不妊治療に要する費用の一部助成を行い、不妊治療を受けている夫婦の経済的負担の軽減を図り、治療を受ける機会を増やすことができた。	
<b>内部評価結果</b>	
不妊治療を受けている夫婦の経済的な負担を軽減し、治療機会の増加につなげる重要な事業であり、今後も制度の周知に努めていく必要がある	